

地震の被害を知る・地震に備える

自然の脅威である「地震」を防ぐことはできませんが、私たちは普段から「備え」をすることができます。大切な命を守るため、家族で揺れの大きさや想定される被害などを知り、ご家庭の地震対策をもう一度チェックしてみましょう。

地震発生時 場所ごとの行動を知っておきましょう！

地震の揺れを感じたり、緊急地震速報を見聞きしたら、慌てず、まず身の安全を守る行動をとりましょう。周囲の状況により具体的な行動は異なります。日ごろからいざというときの行動を考えておきましょう。

<p>屋内では</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 転倒落下物から離れ、机の下などへ ● 火の始末は揺れが収まってから ● ドアや窓を開けて逃げ道を確認 	<p>商業施設では</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 買い物かごや手荷物で頭を守る ● 棚から離れ、広い場所や柱の付近へ ● 慌てて出口に走り出さない ● 停電になってもむやみに動かないで待機する ● 係員の指示に従って行動する 	<p>車の運転中では</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ハザードランプをつけ、左側に停止 ● 橋、海岸など危険箇所から離れる ● キーをつけたまま車検証を持って徒歩で避難する 	<p>屋外では</p> <ul style="list-style-type: none"> ● バッグなどで頭を守る ● 落下物に注意し建物から離れる ● 塀や自動販売機の転倒に注意する 
--	--	---	---

こんなときはすぐ避難しましょう！

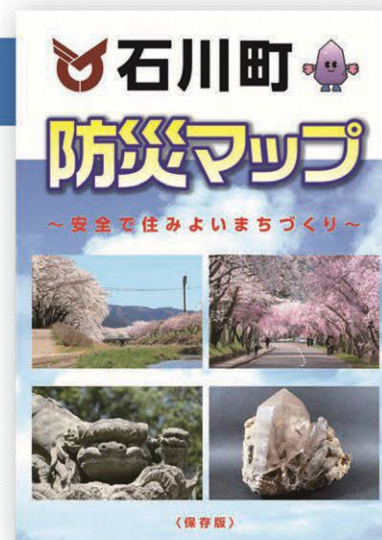
建物が倒壊する危険がある ガス漏れや火災の危険がある 津波の可能性はある 等

石川町防災マップを改訂しました

町では、河川の浸水想定区域見直し等に伴い、石川町防災マップを令和3年9月に改訂しました。このマップでは、洪水・土砂災害ハザード情報、令和元年台風第19号浸水実績及び町が指定する避難場所等、また防災に関する情報をイラストなどで分かりやすく掲載しています。

ご家庭の目につくところに常備していただき、家族や地域で災害に対する話し合いの中でご活用ください。

防災マップは、
町役場総務課防災対策室で配付しています。



震度と揺れ等の状況(概要)

<p>0 [震度0] 人は揺れを感じない。</p> 	<p>1 [震度1] 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。</p> 	<p>2 [震度2] 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。</p> 	<p>3 [震度3] 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。</p> 
<p>4 [震度4] ほとんどの人が驚く。電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。座りの悪い置物が、倒れることがある。</p> 	<p>6弱 [震度6弱] 立っていることが困難になる。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。</p> 		
<p>5弱 [震度5弱] 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまると感じる。棚にある食器類や本が落ちることがある。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。</p> 	<p>6強 [震度6強] はわなにと動くことができない。飛ばされることもある。固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。</p> 		
<p>5強 [震度5強] 物につかまらなると歩くことが難しい。棚にある食器類や本で落ちるものが増える。固定していない家具が倒れることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。</p> 	<p>7 [震度7] 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。</p> 		

地震が起きたら **あわてず、まず身の安全を!!** **緊急地震速報を見聞きしたら**

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難
- 運転中は、ハザードランプを点灯し、緩やかに減速
- あわてて外に飛び出さない(落下物や車が危険)
- 近づくな、門や塀、自動販売機やビルのそば
- 揺れがおさまってから、あわてず火の始末
- 海岸でぐらっときたら高台へ
- あわてた行動、けがのもと

家屋の耐震化や家具の固定など、日頃から地震に備えましょう!!

●出典：気象庁「気象庁震度階級の解説」 <お問い合わせ先> 総務課 防災対策室 ☎26-9127